

令和2年度 府立丹後緑風高等学校久美浜学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階評価）

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創りだす」人材を育成する。</p> <p>1 丹後地域の自然・歴史財産を活用した新しい時代に求められる探究心の育成</p> <p>2 丹後とグローバル社会を結ぶ若者力の育成</p> <p>3 丹後地域での新しい農業と食を創造できる人材の育成</p> <p>4 福祉マインドの育成</p>		<p>1 学習指導の充実</p> <p>(1) 地域や網野学舎との連携、探究活動の推進により専門学科教育を充実させる。</p> <p>(2) 探究活動を進め、地域創生への意識を高めるとともに、社会人基礎力と主体的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>(3) 進路を見据え、一人一人に応じたきめ細かな学習指導と計画的なキャリア教育を進める。</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>(1) 全教職員による日常的な指導により、規範意識の醸成と健全な生活態度の育成を図る。</p> <p>(2) 部活動・ボランティア活動等への積極的な参加を促し、自己の可能性に挑戦する姿勢を養う。</p> <p>(3) 地域連携の取組や発表の機会を多く持つことで、自己有用感を高める。</p> <p>3 学舎間連携の推進</p> <p>(1) 学舎間会議等により連携を促進するなど、全教職員で新しい学校づくりを進める。</p> <p>(2) 遠隔教育システムの活用により教育活動の充実を図る。</p> <p>4 効果的な広報活動</p> <p>(1) 本校の取組の成果を広く発信し、中学生や保護者、地域住民の理解を促進する。</p> <p>(2) 学校説明会の実施内容・方法を見直し、積極的な生徒募集に努める。</p>

(注) 具体的方策についての目標は【 】内に記載。なお、久は久美浜高校、緑は丹後緑風高校久美浜学舎、久・緑は両校を対象とした目標。

A : 3.3~4.0 B : 2.5~3.2 C : 1.7~2.4 D : 1.0~1.6

評価領域	重点目標 (取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題	
組織運営	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の成果を、保護者や中学生に対して分かりやすくタイムリーに知らせるために、学校だよりやホームページを充実させる。 【学校だよりの発行：10回 久・緑】 【ホームページの更新：毎日 久・緑】 	A	<p>学校だよりの紙面を総務企画部内で検討を重ねながら作成することができた。しかし、納期に追われることが多く、計画的な記事依頼を行う必要がある。</p> <p>具体的な教育活動の展開に向けて、教員間での連携を進めていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応として扇風機等を設置した。日没後の部活動の安心安全確保のためグラウンドに照明を設置した。引き続き環境整備に努めたい。</p> <p>まだ退勤時間は8時を超えている。業務改善についてさらに検討が必要である。</p>	
	網野高校・丹後緑風高校網野学舎との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学舎間会議等により連携を密にして、学舎間の交流による教育活動の充実について検討し、計画的に実施する。 	B		
	安心・安全・快適な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な安全点検の実施により、危険箇所を早期に発見し修繕を行う。 校内の整理整頓により、快適な教育環境の整備を図る。 光熱水費等の節減により、学校運営費の予算を確保する。 【学校評価アンケートでの教育環境満足度75%以上 久・緑】 	A		
	教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 行事や業務内容の精選やICT機器の活用等により、教職員の業務の効率化を図る。 【原則午後8時までの退勤：100% 久・緑】 	C		
家庭・地域との連携	家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 家庭連絡を密に行うことで、信頼関係を築き、保護者と教育方針を共有して指導にあたる。 【学校評価保護者アンケートでの「学校の様子がよく分かる」の肯定的評価が80%以上 久・緑】 	B	<p>学校評価アンケートにおいて「学校の様子がよく分かる」への肯定的な回答は75.0%であった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により当初進まなかった連携であるが、専門教科を中心に様々な連携の取組を進め、教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>社会人講師は15人にお世話になった。内容を振り返り、精選してさらに良い活動にしたい。</p>	
	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地元農家 (OB) や農林行政機関、JA、大学等との連携を密にすることで、教育内容を充実させるとともに、地域貢献にもつなげる。 【上記機関等との連携活動：15回以上 久・緑】 	A		A
		<ul style="list-style-type: none"> 「地域」をテーマにした探究活動を実施し、地域の社会人講師の協力を得て、学習内容の充実を図る。 【地域の社会人講師による指導：5回以上 久・緑】 	A		
学習指導	授業規律の確立 「時を守り、場を清め、礼を正す」	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に育てるために、授業規律と教室内の整理整頓の指導を徹底する。 【「授業規律カード」による指導複数回生徒：0件 久・緑】 	B	<p>授業規律カードによる指導は、1件1名であったが、授業規律の徹底、教室内の美化・整理整頓に課題がある講座もある。</p> <p>スタディプログラムGTZの第1回と第2回を比較すると、5名(14.3%)は成績上昇したが、11名(31.4%)は下降となり課題が残る。学習に向かう雰囲気醸成ときめ細やかな指導が早急に求められる。学年と教科担当の連携により個々の学習課題に応じた適切な指導を行うことも重要と考える。</p>	
	主体的な学びの姿勢・学力向上 (教員の教科指導力向上)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力について、客観的なデータに基づく分析を行い、授業等での指導の改善につなげる。 【1年生スタディプログラムGTZ：第1～3回で1段階以上の上昇の生徒が60%以上 緑】 	C		
		<ul style="list-style-type: none"> 目標の設定と振り返りの実施、ICT機器や様々な教材・教具の活用、探究活動の手法の導入等による授業改善を進めることにより、生徒の学力の向上と主体的に学びに向かう姿勢の育成を図る。 【「公開授業・研究授業週間」の教員授業参観：年間1人2回 	B		C

		以上【久・緑】 ・生徒の状況に応じて課題の内容や提示の仕方を工夫し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 【 【 考査前の家庭学習時間 1 日平均120分以上の生徒の割合：50%以上【久・緑】】	C			
	専門教育の充実	■アグリサイエンス科 ・基礎的な専門知識や技術の習得を図る。 【 【 関係分野資格取得生徒数10名【緑】】 【 【 専門教育分野の「生徒授業満足度調査」肯定的評価80%以上【緑】】	B			一期生としての自覚を促し、農業学習の基礎・基本を教えている最中であり、農業関連の資格取得や農業クラブ活動も推進した。7月には海部Kitchenを開設し、食品コースのスタートに向けての準備も積極的におこなった。 「みらい探究I」、「ライフスキル」、「社会と情報」の授業を通じて、思考力・判断力・表現力や学びに向かう人間性を養うことができた。学びの成果を多くの発表の場で、披露した。
		■みらいクリエイト科 ・探究の基礎となる学習をとおして、コミュニケーション力や他者と協働して取り組む姿勢を養う。 【 【 探究活動の成果を発表する。【緑】】 【 【 専門教育分野の「生徒授業満足度調査」肯定的評価80%以上【緑】】	B	B		
生徒指導	すべての生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境を構築する。	・基本的人権を侵害する行為に対して、全教職員が毅然とした態度で指導する。	A	A	A	各教職員が生徒観察をしっかりと行い、温かい指導を続けている。週1回のアンケート調査から生徒やクラスの変化に素早く対応をしてきた。校内外ともに荒れた雰囲気はなく、特別指導も減少した。特にいじめや暴力事象、盗難事象がなかったことは大変良かった。 駅、バス停、校門付近での立ち番を毎朝行い、挨拶や身だしなみを整える声かけを継続してきた。 部活動では少人数ながら、府大会へ多く進出し活躍することができた。コロナで制限はあったものの参加したボランティアでは多くの生徒が地域貢献をし自己有用感も感じる事ができた。
		・日常の生徒観察を徹底し、毎週1回アンケート調査を行い、問題の早期発見、早期指導に努める。	A			
	自立・自律した生活習慣の確立と生徒の主体的な取組の促進。	・さわやかな身だしなみ、あいさつ励行、整理整頓の指導を通して基本的生活習慣を身に付けさせる。 ・部活動に参加する生徒を増やし、活動の活発化に努める。 ・積極的にボランティア活動に参加する。 【 【 ボランティア活動参加生徒の満足度：肯定的評価90%以上【久・緑】】	B B B	B		
進路指導	キャリア教育を念頭に置いた計画的な進路指導	・3年間を見据えた指導計画に基づき、関係各部の連携により、「ライフスキル」「LHR」でのキャリア教育の充実を図る。	B	B	B	進路指導部主催のキャリア教育の取組は実施できなかった。次年度での充実が課題である。 放課後講習、土曜講習(3SP)は学年と相談の上、実施しなかった。次年度での実施が課題である。
		・放課後講習や土曜講習(3SP)、教科実習等で、希望進路実現に向けて専門知識や技術を習得できるよう、関係教員が連携し適切な指導を行う。	B			
健康安全指導	健康で安全な生活を営むための実践的能力の育成	・保健室から健康情報を発信し、自ら健康管理できる生徒を育成する。 【 【 保健だよりの毎月1回発行と、健康情報のHPへの掲載：】	A			健康情報は計画的に発信できた。課題は生徒が自分の健康管理をできる力をつけることである。

		年5回以上【久・緑】			A	A	掃除について、生徒数、クラス数の減少に伴う分担箇所の見直しが課題である。 不用意、不当な用具の扱いによる怪我や事故がなかったことは実習担当者の努力や、安全点検の結果であるといえる。 来年度は特別支援に関する教職員研修を計画している。
		・食育を推進し、朝食を摂る習慣や食品の成分を考えて食事を選択できる力を身に付けさせる。 【食育キャンペーン実施【久・緑】】	A				
		・「時を守り、場を清め、礼を正す」を合言葉に、美化・掃除活動の指導を行う。	B				
		・授業や体育行事での事故防止を図るとともに、安全教育を行い、大きな怪我や事故を防ぐ力を身に付けさせる。 【学期に1回以上の体育施設安全点検の実施【久・緑】】 【実習中の事故、怪我：0件【久・緑】】	A				
	教育相談・特別支援に関する情報交流並びに、教育相談会議の充実	・生徒の状況について、教員間の情報交換の機会を増やし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携した教育相談・特別支援を進める。 【特別支援の校内研修の実施【久・緑】】		B			
人権教育	人権教育の構築	・全教職員で高い人権意識を持つ。 ・様々な教育活動の機会を利用して生徒の人権意識の高揚に取り組む。 【教職員研修の実施【久・緑】】		B	B		「セクシュアル・ハラスメント」「同和問題」等に関して職員研修を行い、理解を深めた。 「ライフスキル」の時間ではコミュニケーション能力、人の多様性の理解などを深める活動を行った。
	人権意識の向上	・「LHR」「ライフスキル」や学校行事などを活用して計画的な指導を行うとともに、日々の学校生活を通じて、他者への思いやりの意識を育む。		B			

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大による先行き不透明な社会の中で生き抜くために、厳しい状況に耐える強い心や様々な状況に臨機応変に対応できる力を養うことが大切である。 ・ICT機器の活用が一気に進んでいることは大変素晴らしいことであるが、同時に、豊かな人間性を育むことも忘れないようにするべきである。 ・コロナ禍の中において、素晴らしい進路決定状況であるが、先行き不透明な世の中であり、卒業後のフォローも考えておく必要がある。 ・学校評価アンケートに「生徒の声に耳を傾けてくれる教員がいる」との意見があったことは素晴らしい。人と人とのつながりの大切さを忘れないことが必要である。 ・教育活動の様子が保護者や地域によく見えることが大切である。中学生やその保護者が久美浜学舎のことを十分に理解することができるように、広報の在り方についてさらに検討してほしい。
-------------------------	---

次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を全教職員で共有し、その目標に向けて様々な教育活動を展開するとともに、しっかりと生徒の力を伸ばせるよう授業改善に取り組む。 ・生徒一人一人が進路意識を高め、主体的に取り組むことができるよう3年間を見据えてキャリア教育を抜本的に見直す。 ・部活動加入生徒を中心に進めてきた自己有用感を高める取組を、さらに様々な活動や生徒に拡大し、学校全体で生徒の自己有用感を高める。 ・広報の方法やタイミング等を改善し、中学生やその保護者が本学舎の魅力を理解できるようにする。
-------------------	---